

読まれる「議会だより」に――

文字を拡大、12ページに増やす

「市民の声」「追跡記事」も掲載

情報化対策特別委員会が多賀城市議会を調査

「議会だより」の刷新を検討している情報化対策特別委員会は11月12日、多賀城市議会を訪ね、「住民の声」や「あの問題はどうなった」といった追跡記事の編集・掲載の仕方などについて調査しました。

調査結果は、12月定例会の本会議で報告しましたが、その内容を分かりやすくお知らせします。

委員会のまとめ

▼調査後の結論

議会だよりは、多賀城のように基本文字を大きくして読みやすくすべきだし、また、「読まれる議会だより」に向けて「市民参加の記事」や「追跡記事」も新たに掲載するべきで、紙幅が足りなくなることから、12ページへの増ページは必要な措置だと思われる。

▼結論に至るまとめ

多賀城は、編集作業をしているのが任意の編集委員会。このため決定権がなく、議会運営委員会に諮る必要がある。メンバーは期数の若い6人。編集方針と申し合わせを基に編集しているが、改革に対しては期数を重ねた議員からの抵抗もあるという。岩沼は、法定の特別委員会であることから一定の権限があ

り、スピードのある改革を進めることができる。

「住民の声」を取り入れるに際しては、委員の主観が入ったりする懸念があるとのことだったが、いたずらにこれを恐れていては、住民参加はあり得なくなる。登場する市民には「主観」をたっぷり語ってもらう一方、委員は「それを抑制する」ということで克服できると考えたい。

では、多賀城市議会は、どうやってつくっていいか、問題点などがあつたのでしょうか。

多賀城市議会の現状

▼増ページを実施

議会だよりは平成7年8月、市の広報から独立させ、8ページで発行するようになった。19年4月の改選後、メンバーが変わった編集委員会は紙面改善を検討。市民に分かりやすく、市民が参加できる紙面づくりを目指した。

その年度から16ページに増やし、基本文字は10ポイントに拡大。表紙の写真は公募することとし、新たに「住民（傍聴者）の声」を載せるページをつくり、地方分権など「特集記事」も掲載するようになった。

これには改選前の18年に議会

が行った市民アンケート（約800人）が参考にされた。増ページに際しては、印刷業者の選定方法を見直すことにより、経費はかえって節減された。

▼偏らないように配慮も

市民に直接インタビューなどをして記事にしているところは新鮮だが、編集者の思いで偏ってしまう面もあるという。テーマは、編集委員が持ち回りで決める。担当委員が提案し、委員会の了承を得る。（担当者の主観が多くなるように配慮している。）

▼写真を公募、しかし…

公募は、議会だよりで行っている。しかし、応募はこれまで1件だけ。しかも、季節に合わない写真だったため、採用しなかった。季節に合うようになつた時期に、表紙ではないが、中面で使った。応募がないので、代わりに議員が撮った写真などを載せている。



編集後記

平成20年の世相を1字で表す漢字が「変」に決まったようです。岩沼市議会の「議会だより」も20年度から、内容の「変革」を目指してきました。読みやすさを追及してまいります。これまで表紙の写真も「子ども」に替えたり、一般質問する議員の顔写真を載せたり、記事に見出しを付けて内容が分かるようにしました。また、発行日を1カ月早めました。

「12月定例会」号の編集は、歳末・正月の慌しさの中、日にちに追われ大変でした。12月10日に一般質問（14人）が終了し、会議録の

分かりやすさを追求
ゲラ刷りが業者から担当委員に届いたのが12月23日。原稿に仕立てた後、26日に校正。表紙を含め最終調整の編集会議は1月14日。印刷業者に発注した後に、校正を重ねて104号が出来上がりました。
年末年始は役所も、関係業者も休日に入るため、その前後の私たちの作業が忙しくなるのはやむを得ません。これからも議会の審議内容を市民の皆さまに分かちやすくお届けできるように頑張ります。

記事の字を大きくすることも検討中です。

情報化対策特別委員会